

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503742	
法人名	有限会社 青葉メディカ	
事業所名	グループホームはるうらら	
所在地	福山市 青葉台1丁目10-6	
自己評価作成日	平成24年10月17日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人を大切に、毎日をその人らしく、そして楽しく過ごしていただけるよう、利用者様に寄り添った支援を心掛けています
ボランティアなど地域の方々のご協力を得て、施設を盛り上げていただいております
これからも、家族は勿論、地域の方々がいっでも気軽に足を運んでくださるような開放的で、地域に根ざした施設となるよう努力していきたいと思っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には商店やスーパーが点在し、利便性が良い場所にありながら静かで落ち着いた環境にある事業所である。母体が医療機関であるため急な体調変化にも即対応し、夜間緊急時には近くの病院とも連携し、支援しているのが安心である。併設のデイサービスや隣接の事業所も同じ法人施設なので連携は取れている。職員は利用者のことを第一に考え、机・椅子やベッドなどは低く調整され、季節の花や草や葉を使った飾り付けが落ち着いた雰囲気、いつも穏やかに笑顔で過ごせるよう配慮されている。階下のデイサービスと合同で行事を行い、利用者同士の交流も図られている。職員間の仲の良さ、お互いのいいところは積極的に吸収するという関係が利用者への接し方に表れていて、優しき溢れる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の見えるところに理念を掲示し、常に確認できるようにしている ミーティング等を通して、方針の確認を行い、共通理解に努めている	その人らしい尊厳のある介護」を理念に掲げ、掲示し、職員間で話し合い、共有を図っている。日々のケアを振り返り、理念のポイントがずれないように常に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根ざした医療機関を母体とし、町内会行事へ参加するようにしているが、事業所内の高齢化に伴い、参加が難しくなっている 地域ボランティア・保育園児とは来所による交流が主となっている	地域の一員として町内の清掃に参加している。併設のデイサービスと共にイベントを行い、地域の方に参加して頂き交流を深めている。外出が難しくなられた利用者に地域の保育園児やカラオケ、三味線のボランティアの方等の訪問があり、楽しい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との深い関わりを持ち、情報交換しながら取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回の運営推進会議を10月に開催する事が出来、今後も定期的に会議開催を行い、サービスについての意見交換することで、ケアの質向上に繋げていくよう努めている	利用者・利用者家族・地域包括支援センター職員・事業所関係者を参加メンバーに運営推進会議を開催した。現状報告をし、質問・意見・要望を受け、意見交換を行った。	地域に開かれたサービスとして質の確保を図る上で、近隣住民や行政職員等に参加を呼びかけ、幅広く意見をもらうことが求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務についてや制度について不明な時や対応困難時には連絡を取り、相談し、意見を伺うようにしている	直面している課題解決に向け、電話等で相談や質問をし、意見を伺い、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員を中心に定期的に身体拘束の必要有無や身体拘束しなくても良い方法を話し合い、実践するようにしている	身体拘束や言葉の拘束について、ミーティング等で研修を行い、職員の共有認識を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員を中心に勉強会を行い、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加、制度について理解するよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・退所時には十分に説明を行い、疑問点にはその都度回答する事で、理解を得るよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃から時間を作り、訴えや要望に耳を傾けるようにしている ご家族とは来所時に様子の報告するなど話をする機会を持ち、日々の業務改善に生かすようにしている	利用者からは日々話を聞いており、家族等も月1回は必ず来られるので、訪問時には利用者の状況説明や意見・要望を聴いている。出された意見や要望は記録し、職員で共有し、支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りやミーティング(月1回)により、職員からの意見や提案を聞くようにしている	職員からの提案や要望は申し送り時やミーティング等で聞いている。日頃からコミュニケーションを図っており、気軽に話し合える関係である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が出来るだけ、職場に顔を出し、現状把握するよう努めているが、なかなか十分にできていない 管理者・事務長の現状報告にて就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、積極的に参加を勧め、職員のレベルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者としては、同業者と交流する機会が少ないが、管理者や職員は交流の場もあり、勉強会に参加するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ずご本人、不安や要望をうかがい、安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族との面会を行い、話を伺うことで、安心できる関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の望まれている事を理解し、主治医などから得た情報と合わせ、サービスの内容を検討するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービスの提供だけでなく、ご本人が出来ることは一緒に行い、コミュニケーションを図りながら楽しく、安心して過ごしていただけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には、普段のご様子を伝え、ご意見・要望、時には助言を頂きながらご本人と一緒に支えていけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の高齢化により、外出することが難しくなってきた為、時間があれば、来所していただき、関係が途切れないよう支援に努めている	利用者の思いを尊重して、利用者の友人・知人に訪問してもらえるよう努め、関係が途切れないよう支援している。併設のデイサービスと交流があり、時々遊びに来てもらっている。家族が墓参り等に連れて行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各人の違いや相性もあるが、孤立せず心穏かに過ごしていただけるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方々のご家族とも必要に応じ、相談を受けるなど良い関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望には、耳を傾け、職員一同でその事の可能性や実現に向けて、ご家族にも協力を求め、取り組んでいる	入浴の時等に本人からゆっくり話を聞き、意向の把握に努めている。また困難な場合には、生活歴や表情やしぐさ等から思いを察知し、利用者の立場から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを通して、昔の事や、経験してきた事などご家族も交えながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、朝夕申し送りを行い、状態の変化や気づきについて確認するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望をお伺いし、ご家族、職員、主治医、療法士と話し合い、介護計画書に反映させている	利用者・家族・主治医等からモニタリングを行い、職員のカンファレンスを経て介護計画を作成し、職員間で統一したケアを行うよう図っている。設定期間ごとの見直しと本人の変化に応じた随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて、日常の生活状態、身体状況を記録 情報交換をし、共有しながら計画の実践・見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅、リハビリ、主治医、ご家族、ボランティア、他職種に渡り、情報交換・共有をしながら取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、各機関、ボランティアの力を借りながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状により、ご本人・ご家族が希望され、納得した医療機関を受診していただいている	利用開始時に話をし、希望の医療機関を受診してもらっている。協力医による週1回の往診や訪問歯科の支援もある。眼科・皮膚科等の他科受診は家族対応となっている。受診結果に関する情報の共有は出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関や訪問看護ステーションの看護師と連絡・相談を行いながら、日常の健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を通して、情報交換・相談出来るように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢化に伴い、急変の可能性が高くなってきているため、早い段階で、ご家族と話し合い、方向性を決めて対応している	看取りの指針があり、本人・家族から同意書ももらっている。これまでに看取りの経験もあり、利用者に状態変化等があればその都度家族と話し合いを行い、協力を得ている。緊急時等は協力医の指示を仰ぎ、看護師の協力も得ている。近隣の病院とも連携し、対応に当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に供えて、応急処置や初期対応について話し合い・確認を行い、実践できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を目標にしているが、現在出来ていない 全職員が利用者様の避難方法を身に付け、地域との協力体制を整える必要がある	今年度の避難訓練はまだ出来ていない。	災害はいつ起こるか分からないので、職員は慌てず具体的な避難誘導が出来るように備えておく必要がある。地域住民の協力も得て、避難訓練、避難経路の確認等、定期的な訓練を行うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや接遇については、日頃から職員で話し合う機会を持ち、相手の立場に立った対応ができるようにしている	接遇やプライバシー保護の勉強会を行い、職員の意識統一を図っている。利用者の人格や誇りを尊重し、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自己決定することが難しくなってきたが、個人の思いや希望を引き出し、自己決定に繋げていけるような声掛けができるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇時間に何がしたいか、どう過ごしたいかを伺い、一人一人のペースに合わせ、強制的な対応にならないようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望をうかがいながら、服を決めるようにしており、訪問美容師をお願いをして、随時カット対応するなど気分良く過ごせるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけは段々と難しくなってきたが、食事はできる限り、自分で食べていただけるよう、好みや食べやすいように対応している	利用者の出来る範囲で手伝いをしてもらうこともある。一人ひとりの状態に応じて食事の形態を変えて、職員は利用者言葉をかけながら、一緒に食べている。利用者が食べたい物は誕生日会等で作り、食事が楽しいものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて支援できるよう、水分量や食事量、嚥下の状態などチェックしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、義歯については毎晩洗浄剤を使用して清潔に努めている 必要に応じて、訪問歯科や受診など治療が受けられるように対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンに応じて声掛け、誘導しているが、日中はできる限り、トイレでの対応を心掛けている	排泄チェック表でパターンの把握に努め、日中は可能な限りトイレで用を足す支援をしている。利用者一人ひとりに合わせ、時間前誘導や行動などから敏感に察知し、個別の排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態は毎日チェックを行い、主治医との連携を図り、食べ物・運動・内服薬・坐薬の使用などで便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々のスケジュールと人間的なことから時間・曜日については決めて対応しているが、個々の状態に合わせた対応ができるようにはしている	週2回午前中の中の入浴となっているが、希望等があれば柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には、言葉かけやタイミングを工夫し、無理強いすることなく、一人ひとりに合わせた入浴支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室では自由に、共有スペースでも安心して過ごしていただけるよう環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・薬剤師の協力を得ながら、管理・確認を行い、症状の変化があった時には報告・相談により、対応できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは取り組んでいただき、一人一人の力を確認し、その中から自信と楽しみに繋がるよう援助している 好きなテレビ番組を見ることなどでも気分転換できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力を得ながら、外出ができるよう支援に努めているが、体力の低下もあり、回数は限られている	敷地内での日光浴や近くの公園に車椅子で花見に出かけている。希望等があれば、家族の協力のもと、出かけられるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での使用はないが、買い物などでの使用ができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、電話や手紙のやり取りができるよう支援に努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・職員の声・外部の光・電気の明るさなど、不快に感じた時にはすぐに不快が解消できるよう配慮している 壁には、季節が感じられる飾りをつける等、居心地良く過ごせるよう支援に取り組んでいる	リビングは広く見渡せることが出来、机や椅子の高さは利用者に配慮し低くなっている。利用者に季節を感じてもらうように、壁は四季折々の自然の草花を使い工夫された飾りで彩られている。リビング全体の雰囲気は落ち着いて居て、心和ませ、居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろいで穏やかに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など、使い慣れた物・こだわりのある物を持ち込んでいただき、安心して過ごしていただけるよう取り組んでいる	居室は利用者の使いなれた家具や好みの品々が持ち込まれ、ベッドも低く工夫されている。それぞれの利用者が落ち着いて過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やいろいろな場所がわかるよう表示したり、スペースを取るなど環境づくりに努めている		